



TOKIO MARINE

個人投資家説明会資料

# 東京海上グループの概要と経営戦略

2010年10月20日  
東京海上ホールディングス株式会社  
(証券コード：8766)

取締役社長 隅 修三



TOKIO MARINE

## 本日の内容

1. 東京海上グループの歴史
  2. 保険業界を取り巻く環境
  3. 国内保険事業の戦略
  4. 海外保険事業の戦略
  5. 株主還元
- ご参考資料



# 1. 東京海上グループの歴史



# 東京海上グループ131年の歴史 (主な損害保険事業会社の沿革)

TOKIO MARINE



我が国最初の大実業家「渋沢栄一」らの力により日本人の手による我が国最初の保険会社『東京海上保険』が創立されました

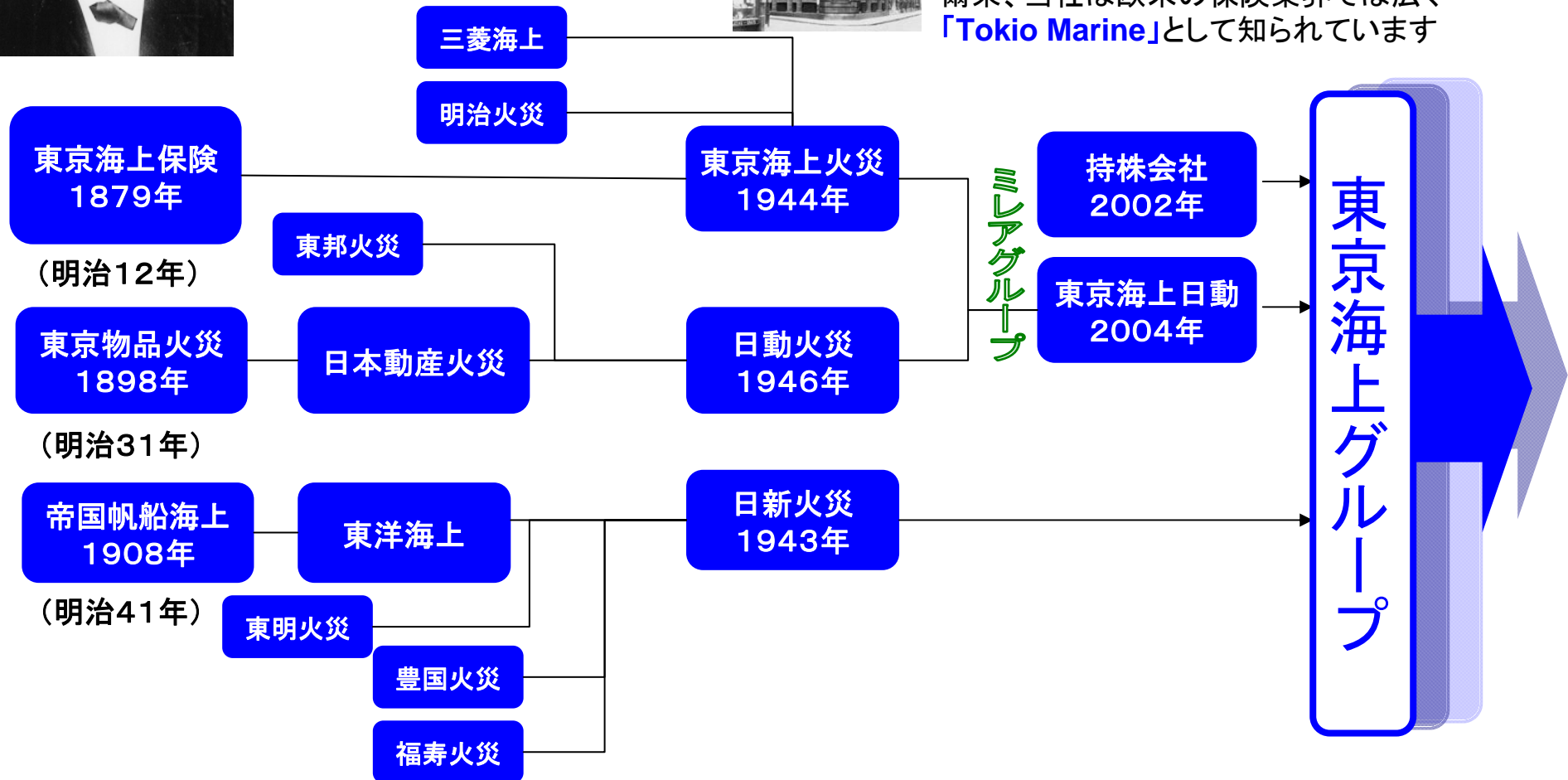
写真: 渋沢史料館 提供



1880年にロンドンに支店を開設

この頃、当時のイギリス人が「東京」のことを「Tokio」と表記していたことになり、東京海上保険も「Tokio Marine」と表記しました

爾来、当社は欧米の保険業界では広く「Tokio Marine」として知られています





TOKIO MARINE

# 現在の主要事業会社



## 東京海上日動



### 日新火災



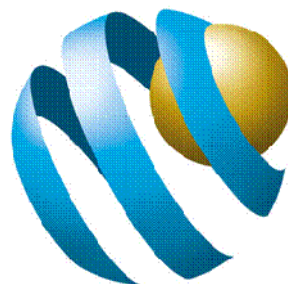
### PHILADELPHIA INSURANCE



### 東京海上日動あんしん生命



### 東京海上日動フィナンシャル生命



## Kiln

子会社および関連会社  
従業員数  
海外拠点数

261社  
約35,000人  
38の国・地域、432都市

※: 2010年3月31日現在



TOKIO MARINE

# 東京海上グループのポジション

## 日本の金融機関：時価総額ランキング

順位	社名	時価総額
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	56,886
2	三井住友フィナンシャルグループ	34,856
3	みずほフィナンシャルグループ	26,905
4	東京海上ホールディングス	19,099
5	野村ホールディングス	16,215
6	MS&ADホールディングス	13,014
7	第一生命	10,229
8	NKSJホールディングス	9,735
9	りそなホールディングス	8,541
10	住友信託銀行	7,739
11	オリックス	7,683
12	ソニーフィナンシャルホールディングス	6,340
13	大和証券グループ本社	6,035
14	T&Dホールディングス	5,826
15	横浜銀行	5,512
16	静岡銀行	5,210
17	中央三井トラスト・ホールディングス	5,074
18	千葉銀行	4,585
19	みずほ信託銀行	3,618
20	常陽銀行	2,984

(単位：億円)

## 世界の保険会社：時価総額ランキング

順位	社名	時価総額
1	バークシャー・ハサウェイ	168,381
2	中国人寿保険	85,644
3	中国平安保険	58,405
4	アリアンツ	43,480
5	アクサ	34,775
6	ING	33,587
7	メットライフ	29,062
8	チューリッヒ	28,643
9	中国太平洋保険	26,714
10	ジェネラル	26,264
11	AIG	23,851
12	ミュンヘン再保険	22,267
13	アフラック	20,987
14	プルデンシャル(米)	20,618
15	プルデンシャル(英)	20,357
16	トラベラーズ	20,304
17	マニユライフ	19,794
18	グレートウエスト	19,353
19	東京海上ホールディングス	19,099
20	パワーフィナンシャル	16,683

(単位：億円)

出典：Bloomberg (2010年10月12日時点)

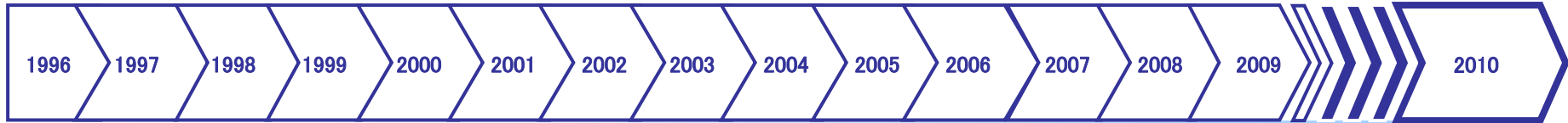


## 2. 保険業界を取り巻く環境



# 自由化と保険業界再々編の流れ

TOKIO MARINE



96年4月 改正保険業法の施行 **自由化が始まる**

- 子会社形態による損保・生保相互参入が開始

98年7月 算定会制度の改革 **各社の独自開発商品が登場**

- 保険料率の自由化が始まる

**業界再々編が始まる**

東京海上ホールディングス

東京海上

日動火災

日新火災

02年4月  
持株会社設立

04年10月  
東京海上日動

06年9月経営統合

大成火災

02年12月統合

日産火災

02年7月 損保ジャパン

安田火災

2社経営統合(NKSJ)  
10年4月

興亜火災

01年4月 日本興亜損保

日本火災

大東京火災

01年4月 あいおい損保

千代田火災

住友海上

01年10月 三井住友海上

3社経営統合(MS&AD)  
10年4月

三井海上

同和火災

01年4月 ニッセイ同和損保

ニッセイ損保



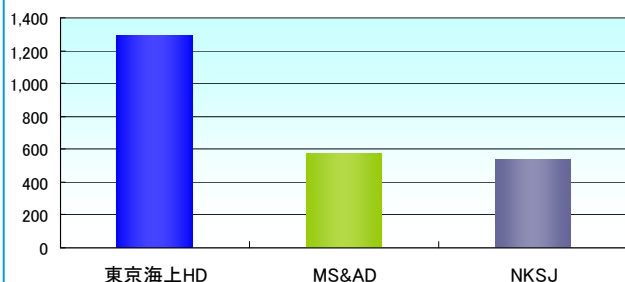
# 主要各社の2009年度業績比較

TOKIO MARINE

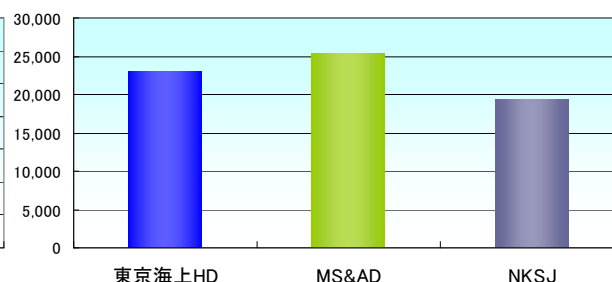
- 当社の2009年度当期純利益は他グループを上回り、対前年+1,052億円増益の1,284億円となりました

## 2009年度

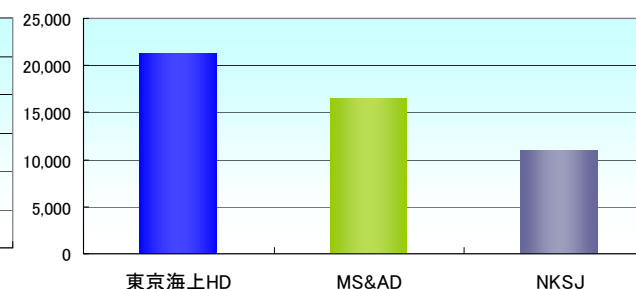
### 当期純利益



### 損保正味収入保険料

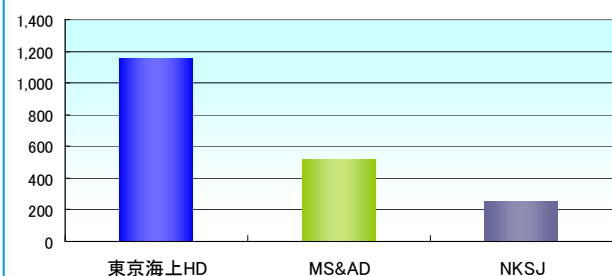


### 時価総額※

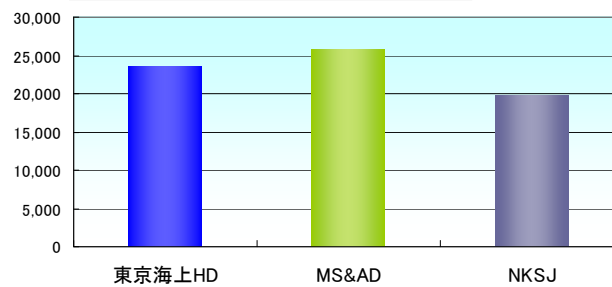


## 2010年度予想

### 当期純利益



### 損保正味収入保険料



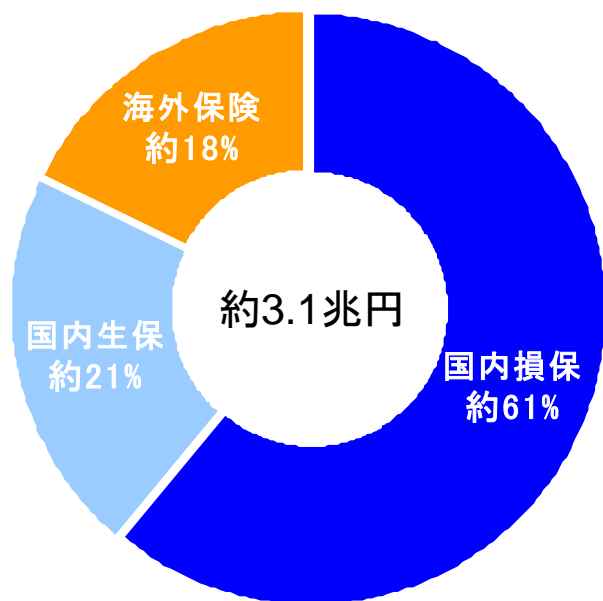
※2010年3月31日時点  
 全グラフの単位は億円  
 全グラフは各社公表数値より弊社推計



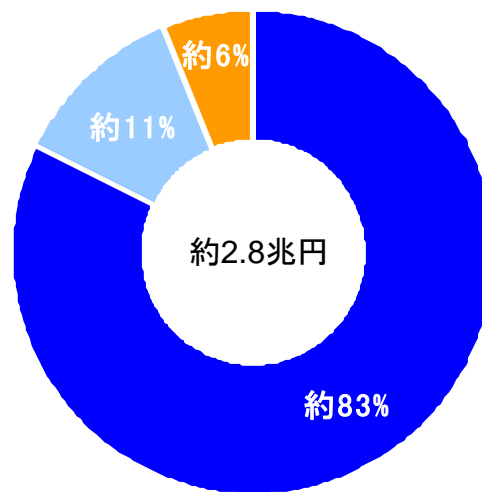
TOKIO MARINE

# 事業構成のバランス(2009年度収入保険料)

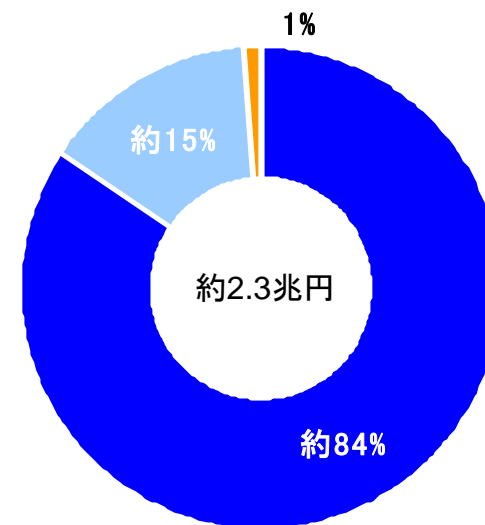
- 2009年度は海外保険事業が大きく成長し、バランスの取れた事業構成比となりました
- 引き続き、国内損保・国内生保・海外保険、各事業毎の課題に取り組み、国内損保のみに依存しない事業構成比の実現を目指します



東京海上HD



MS&AD



NKSJ

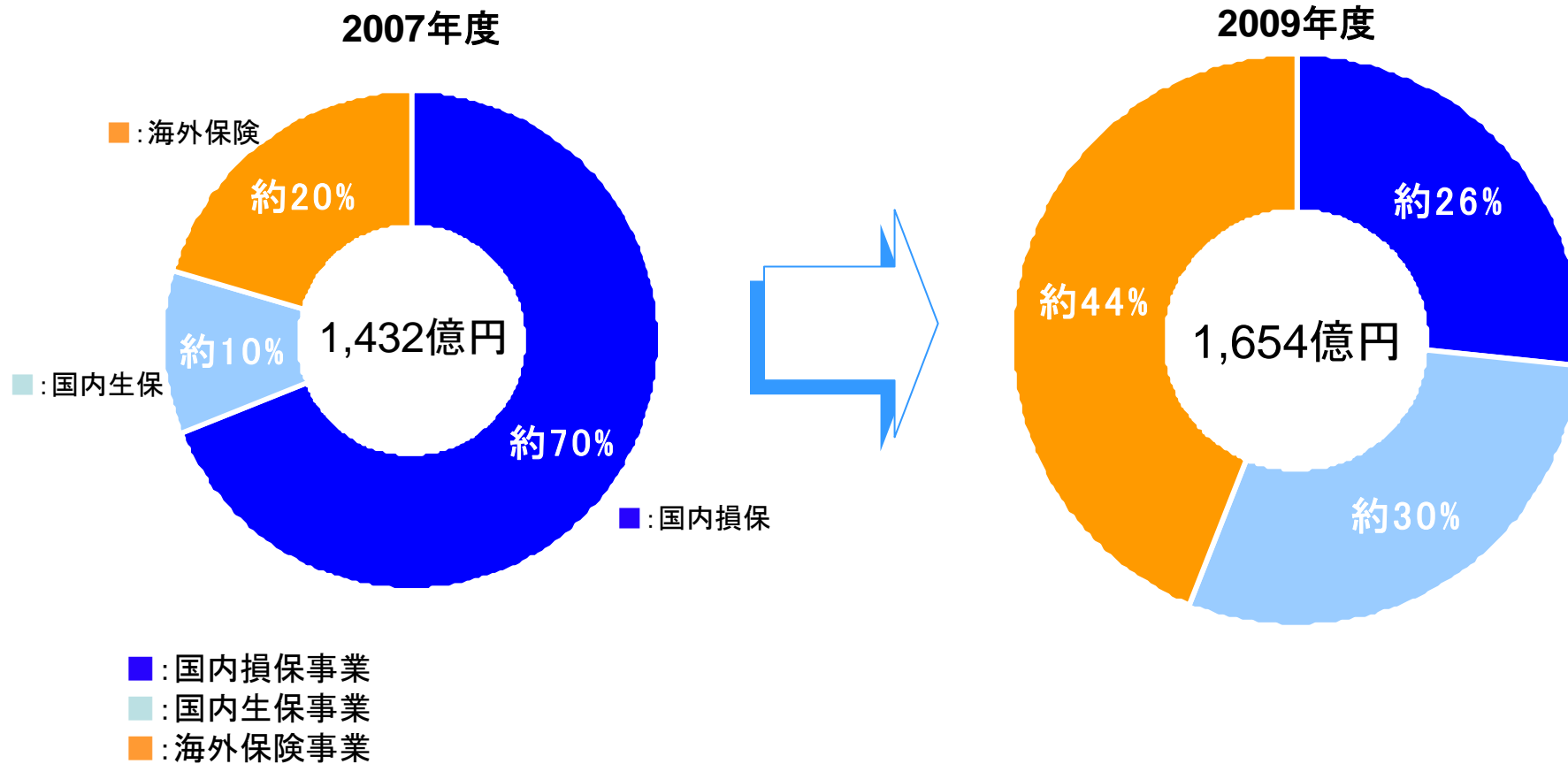
- : 国内損保事業
- : 国内生保事業
- : 海外保険事業

国内損保事業: 連結損保子会社正味収入保険料  
 国内生保事業: 連結生保子会社保険料等収入  
 海外保険事業: 各社公表資料他、弊社調査より推計



# 収益構造の変化(修正利益)

- 2009年度の修正利益は、海外保険事業が約44%を占めるに至り、2007年度以降、2年間で収益の構造を大きく変革致しました



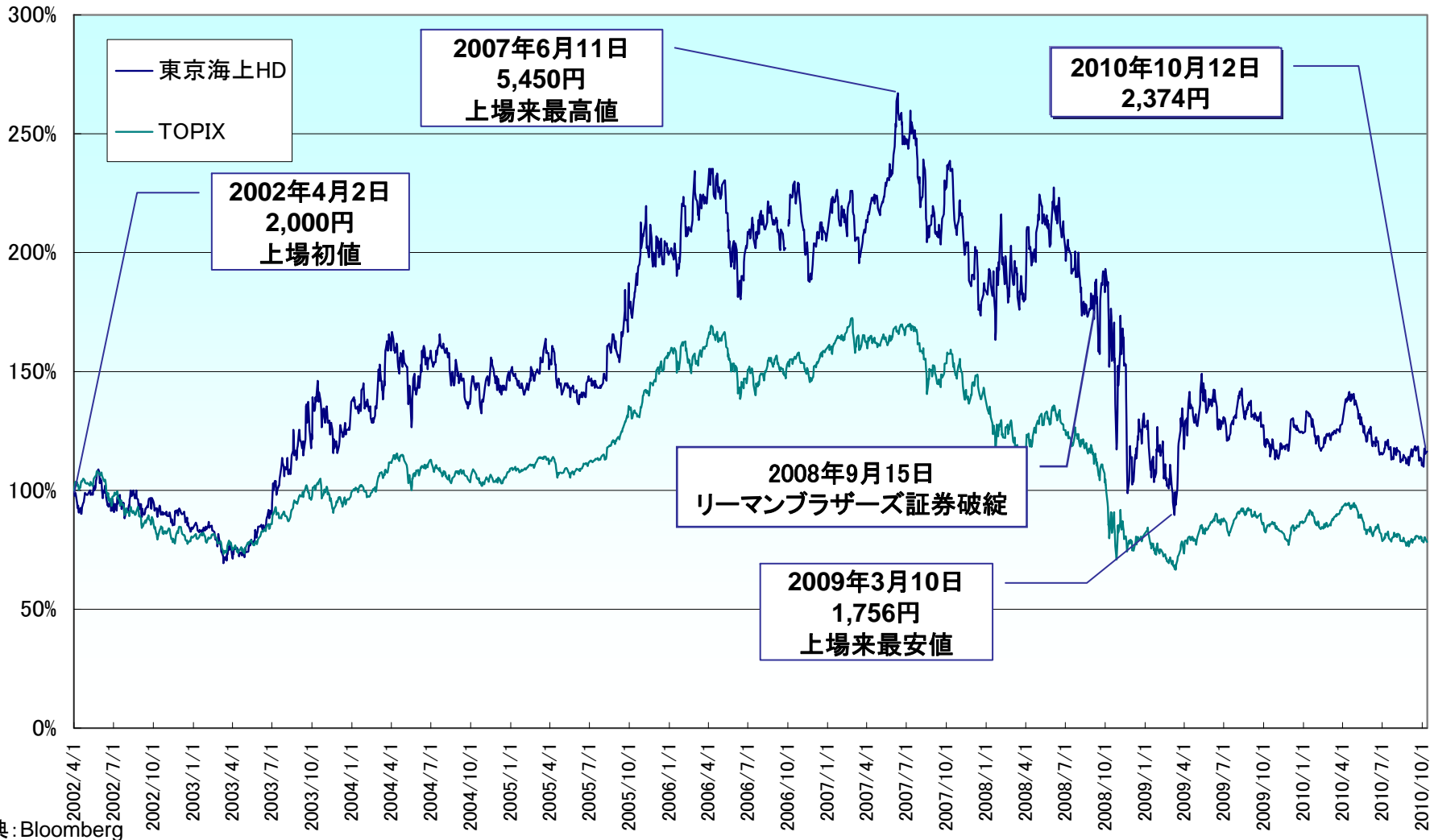
※修正利益の概要につきましては、巻末のご参考資料をご参照下さい



# 株価の推移

TOKIO MARINE

- 当社上場時(2002年4月2日)の当社株価を100としての推移を指数化
- 2003年7月以降TOPIXを上回っています

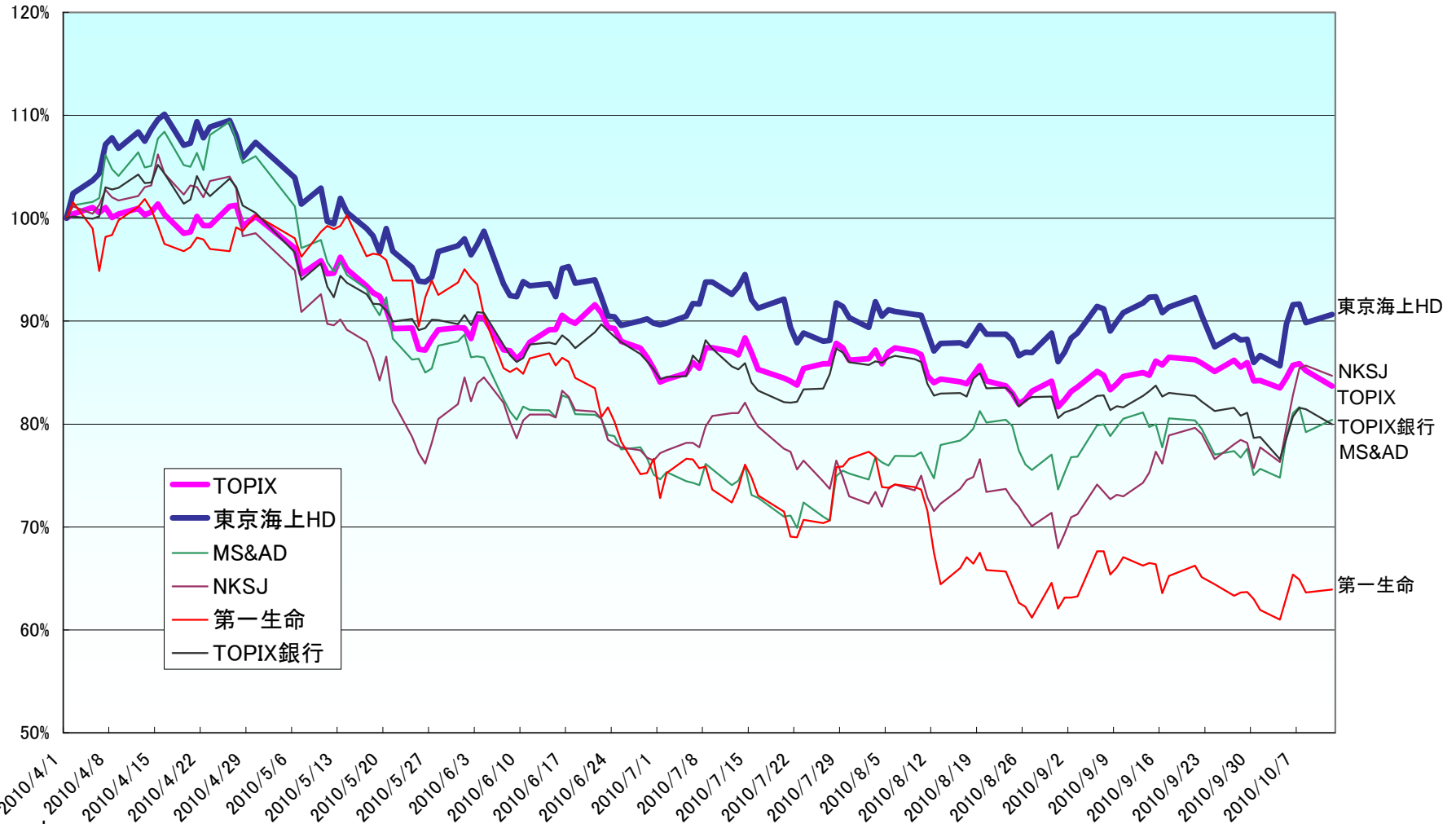




# 株価の推移

TOKIO MARINE

- 2010年4月1日の各社株価を100としての推移を指数化
- 当社のみTOPIXを上回っています



出典: Bloomberg



### 3. 国内保険事業の戦略



TOKIO MARINE

## 現在の取り組み: お客様のニーズに応える営業戦略



### 個人のお客様

- 代理店オンラインやIT基盤など全面的な構造改革により、効率的な業務プロセスが実現。お客様に快適でスピーディーなサービスを提供致します
- 自動車保険や火災保険に加え、10年度は**超保険**の大幅改定を実施し、お客様からの支持拡大を目指します

- 「イーデザイン損保」によりモバイル・ネットの新規市場を開拓します



### 法人のお客様

- 国内外で培ったコンサルティング力を発揮し、企業経営をとりまく多様なリスクマネジメントのニーズに対応します



TOKIO MARINE

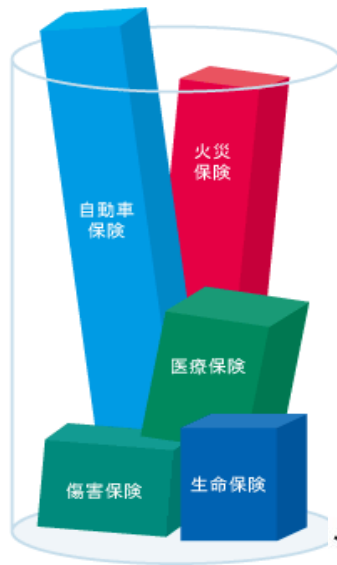
# 現在の取り組み: 生損保一体商品「超保険」

## 超保険とは

- 生命保険と損害保険を一体化し、総合的なコンサルティングによって、ご予算の範囲内でご家族に必要な補償をオーダーメイドすることができる商品です
- 世帯を取り巻く幅広いリスクを対象とし、お客様の家族構成やライフステージの変化にあわせ、ムダ・モレのない合理的な保険手配を行うことができます

### 従来の商品

自動車保険や火災保険、生命保険など、商品単位で保険に加入して頂いていました



### 超保険

従来の商品単位ではなく、お客様に必要な補償のみご加入頂けます



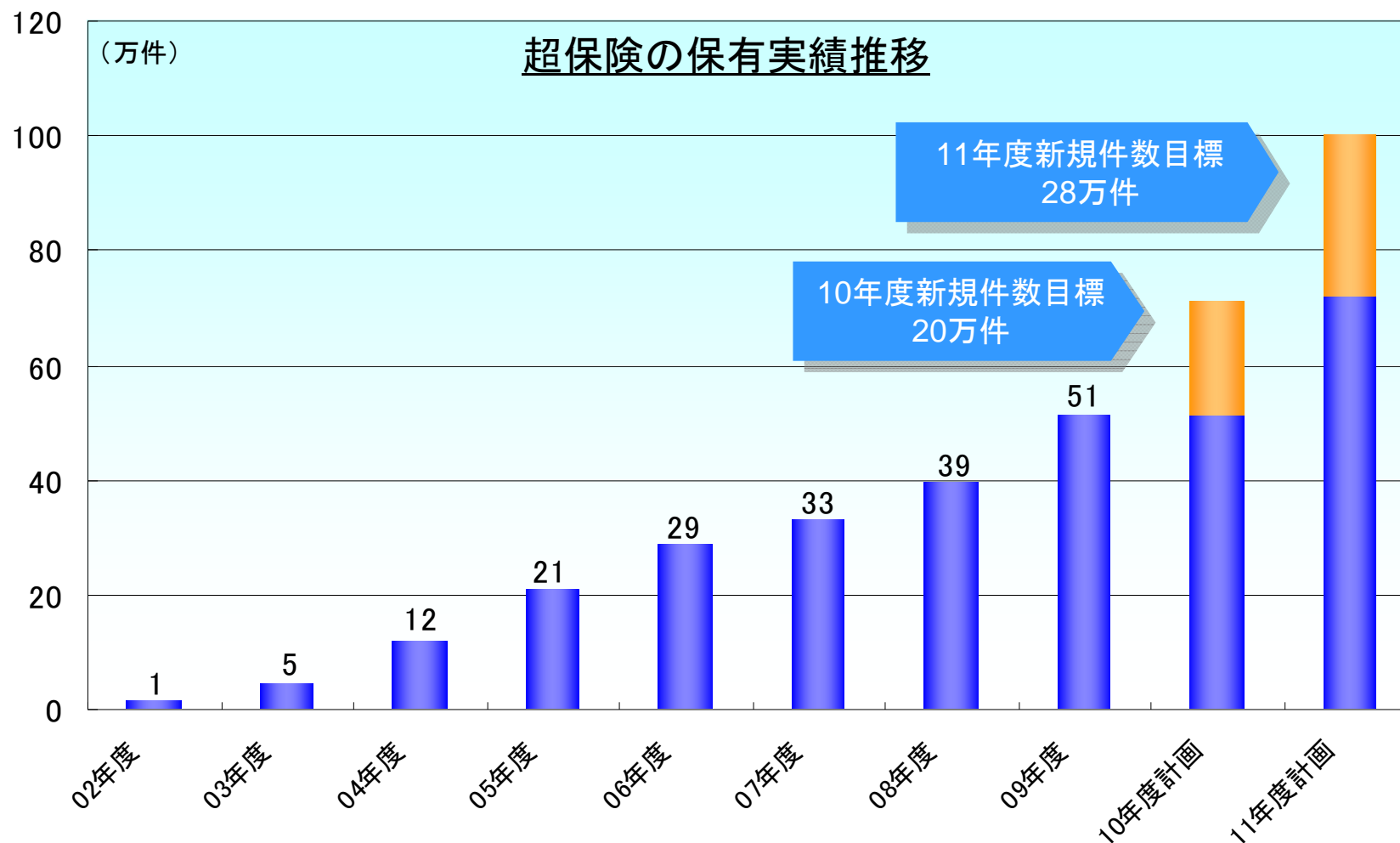
東京海上日動火災保険株式会社



TOKIO MARINE

# 現在の取り組み：生損保一体商品「超保険」

- 「超保険」の保有契約件数は、2010年3月末で50万件を突破しました
- 2010年度は、新規契約件数で20万件（対前年143%）、収入保険料で約800億円（対前年136%）を見込んでいます





TOKIO MARINE

# あんしん生命の成長性

あんしん生命は1996年の創業から順調に成長して参りましたが、超保険の刷新等により、一層の飛躍を目指します



## 生保45社の中で中堅クラスに成長

(2010年3月末時点)

総資産	3兆3,056億円	16位
保有契約件数	299万件	13位
新規契約件数 (2009年度)	46万件	11位



TOKIO MARINE

## 今後の取り組み: 成長分野への取り組み

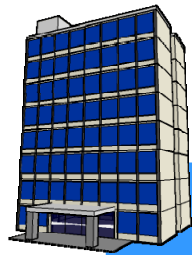
- 自動車保有台数の減少や住宅着工件数の減少など、損害保険マーケット全体の成長は見込み難しい環境が続いていますが、お客様のニーズに応える、新たな商品・サービスの提供や、グループの総合力を活かし、次世代の成長を牽引する新しい分野への取り組みも継続して参ります



増加する医療費や介護費用など

いきいきとした生活を応援

がん保険や介護費用保険などを通じ、経済的負担をカバーする事に加え、予防からアフターケアまでトータルに顧客をサポート



環境・クリーンエネルギーなど、新しい事業と技術が発展する見通し

次世代の日本の成長を応援

グループ総合力を活かしたサービスの提供や新事業に付随するリスク研究を継続します



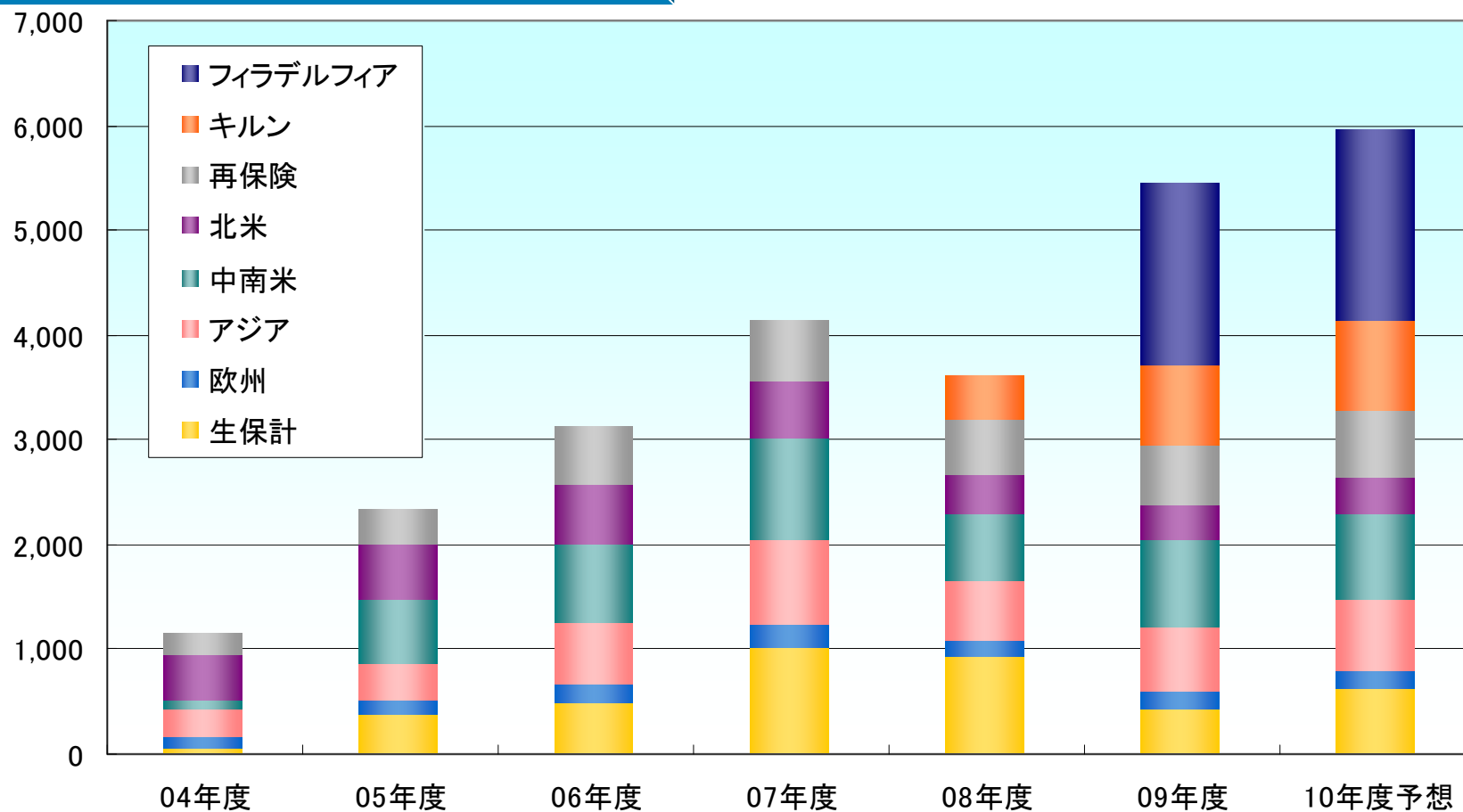
## 4. 海外保険事業の戦略



TOKIO MARINE

# 海外保険事業の成長性

海外保険事業の収入保険料推移 (単位: 億円)



- 世界各地域における積極的な取り組みの結果、海外保険事業の規模は飛躍的に拡大しています
- キルンやフィラデルフィアの買収効果に加え、内部成長やM&Aを活用し、更なる事業展開を継続します



# 海外保険市場への取り組み

## 海外保険市場における今後の戦略



### 先進国市場

- 世界保険市場の中核をなす欧米市場においては、新たに「フィラデルフィア社」「キルン社」を迎え入れ、大きな収益貢献を実現致しました
- 今後も、保険マーケットの中核をなす先進国において更なる収益機会の拡大を目指します

### 新興国市場

- 中長期的な利益成長のため、アジア・ブラジル・中東など幅広い地域で、損保・生保・タカフル等多様な事業を展開いたします
- 今後は、各国市場の拡大と共に事業を成長させ、中長期的な利益獲得を図ります



# 先進国における取り組み: 米国フィラデルフィア社

- 2008年12月に買収が完了した、米國中堅損害保険会社

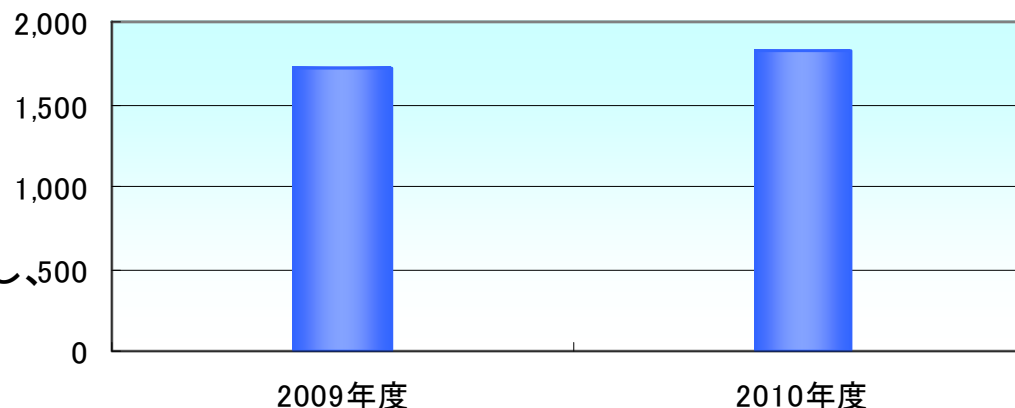
- 特定の業種や顧客にフォーカスした付加価値の高い商品・サービスを提供し、着実な成長を続けています

- 2010年度予想

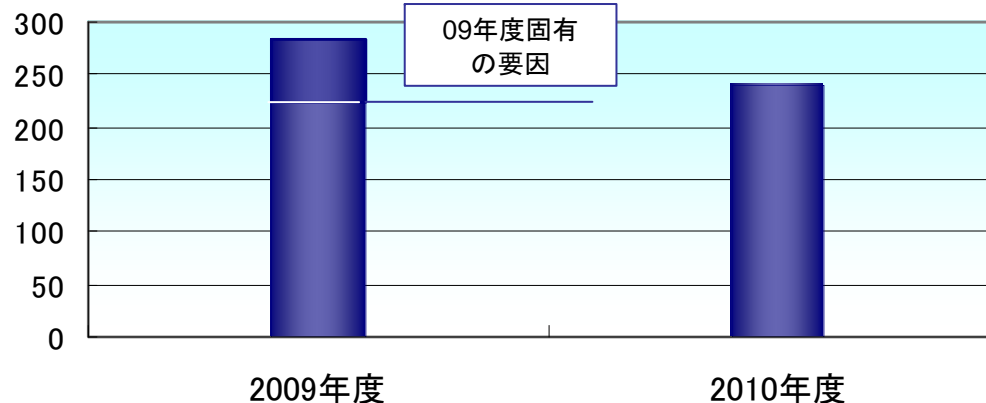
米国損保業界全体は2010年も引き続きマイナス成長が予想される中、引受規律を維持しつつ、強力な営業力を活かし、正味収入保険料は+6%の増収を見込んでいます

前年度の自然災害の発生等が平年並みであったと仮定すれば、修正利益も+7%の増益を見込んでいます

正味収入保険料 (単位: 億円)



修正利益 (単位: 億円)

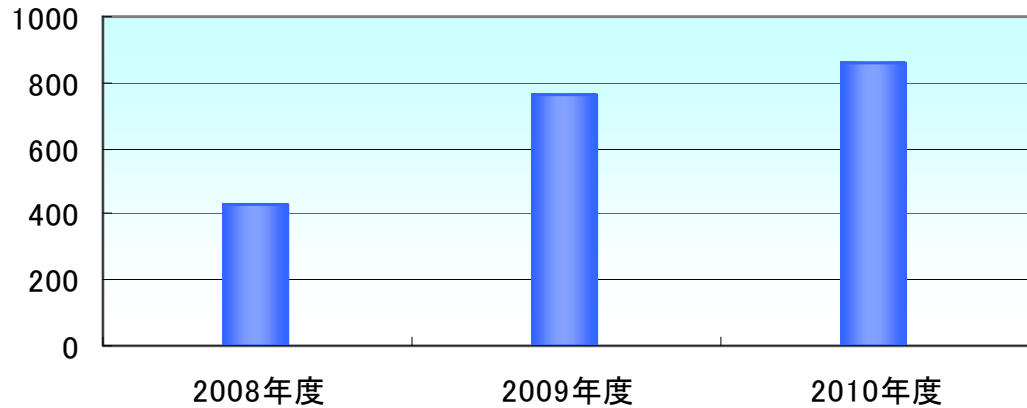




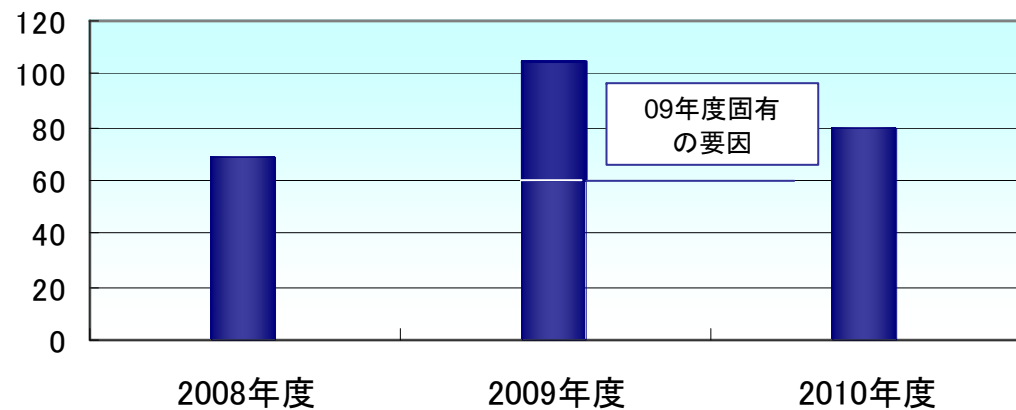
# 先進国における取り組み: 英国キルン社

- 世界を代表する保険市場である「ロイズ保険市場」を中心に、世界的に事業展開している保険会社。2008年3月に買収が完了致しました
- 2010年度予想  
優良契約を厳選し、シェアアップや新規引受、新シンジケートビジネスを拡大し、正味収入保険料は+13%の増収を見込んでいます  
  
前年度の自然災害の発生が平年並みであったと仮定すれば、修正利益も+38%の増益を見込んでいます

正味収入保険料 (単位: 億円)



修正利益 (単位: 億円)



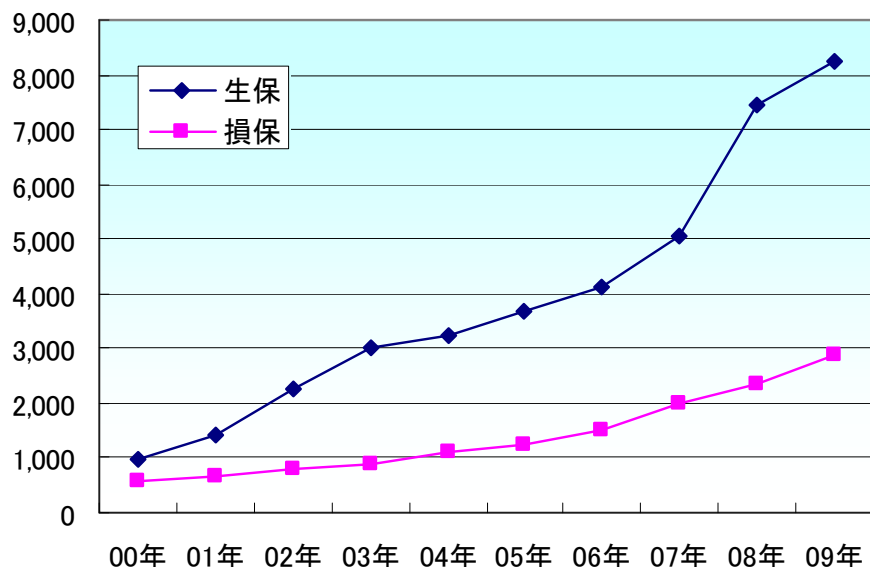


TOKIO MARINE

# 新興国における取り組み：中国保険市場の現状

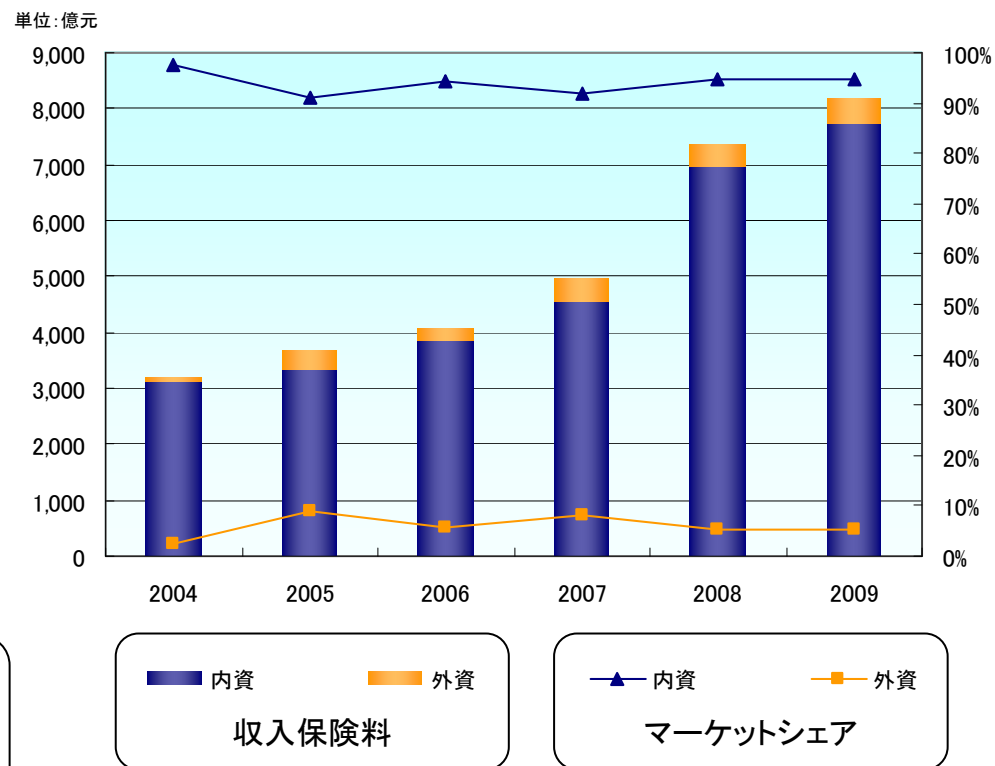
- 中国保険市場は急速に拡大、特に生命保険市場の伸び率が高くなっており、重要な市場の一つとなっています
- 2009年度、生保・損保ともに大きな成長を遂げていますが、市場の90%以上を内資系保険会社が占めており、外資系保険会社が規模の拡大を図るのは容易ではないマーケットです

### 中国保険マーケットの成長性 (単位：億元)



■ 2009年度 中国保険市場規模 約15.1兆円  
(損保：約3.9兆円、生保：約11.2兆円)  
■ 2009年度 成長率  
(損保：約23%増、生保：約12%増)

### 中国生命保険市場のマーケットシェア





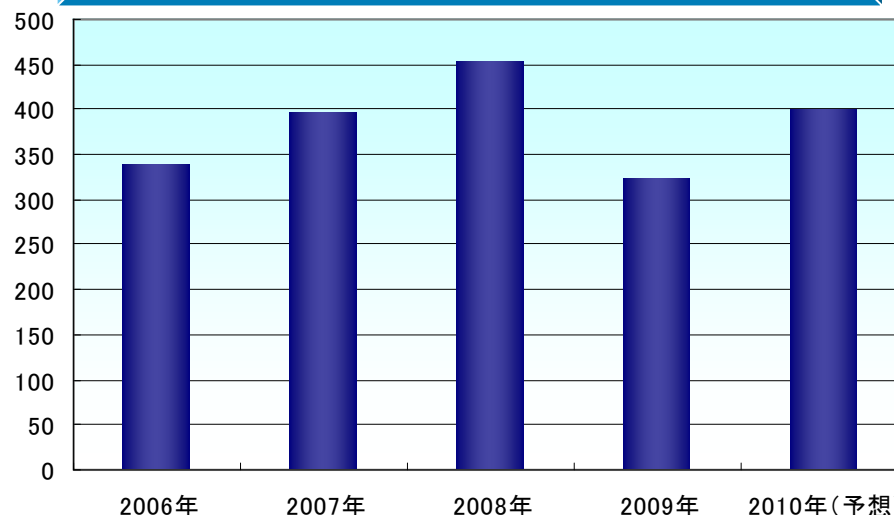
TOKIO MARINE

# 新興国における取り組み：中国保険事業の現状

## 損害保険事業の取り組み

- 創業直後の1879年、上海に代理店を開設しました
- 1994年には日系保険会社としては初めて、上海に支店を開設しました
- 2008年11月に上海支店を現地法人化しました
- 2009年度は景気後退の影響により、減収となりましたが、今後は経済環境の回復に伴い、増収を見込んでいます

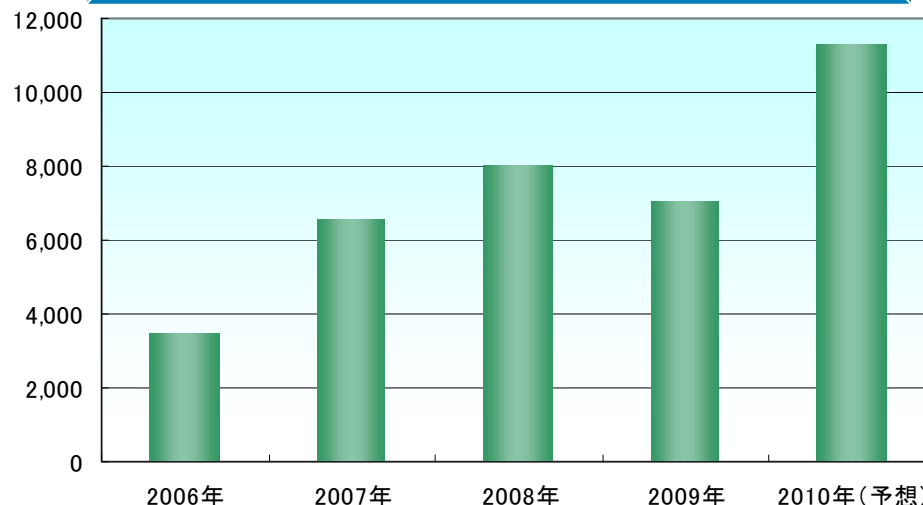
東京海上日動中国社 収入保険料推移(単位:百万元)



## 生命保険事業の取り組み

- 2003年7月、生命人寿社に出資し、中国の生命保険事業に参入しました
- 中堅生保の一角を占める会社として、規模の拡大と、収益力の拡大を図っています
- 2009年度は主力商品の変更などにより減収となりましたが、今後は提携銀行の拡大に伴い、大幅な増収を見込んでいます

生命人寿社 収入保険料推移(単位:百万元)



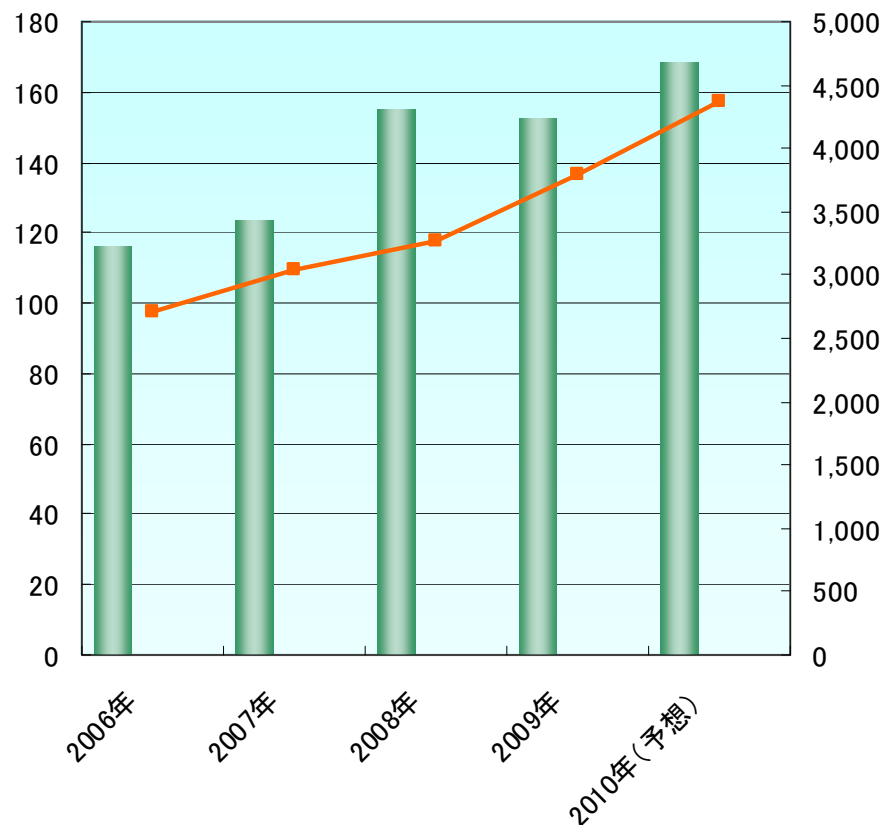


# 新興国における取り組み: インド損保事業の現状



- 2000年12月にインド肥料協同組合 (IFFCO社)と共同でIFFCO-TOKIO General Insurance Company (ITGI社) を設立しました
- インド市場の拡大にあわせ、同社も堅調に成長を続けています

### インド保険市場の成長性及び ITGI社の実績



■ ITGI社のグロス収入保険料(単位:億ルピー:左目盛り)  
 ■ インド損害保険市場の推移※(単位:億ルピー:右目盛り)  
 ※出所: Swiss Re "Insights" (Jan 2010)



TOKIO MARINE

# 新興国における取り組み: インド生保市場への参入

## インド生保への参入

現地の有力金融サービス会社、エーデルワイス社との合弁生保会社設立による参入

### (1) 戦略的意義

- 新興国市場でも潜在的な成長力が大きく、将来巨大市場に発展することが期待されるインド生保市場に参入することによる、海外保険事業の中長期的な規模・収益の拡大

### (2) 新会社概要

- 社名: Edelweiss Tokio Life Insurance Limited
- 資本(開業時予定): 55億ルピー(約110億円)
- 出資割合: 当社26% エーデルワイス社74%
- 開業(予定): 2011年春

### (3) 事業計画概要

- 10年目収入保険料: 約2,500億円~3,000億円(100%ベース)
- マーケットシェア: 1%以上



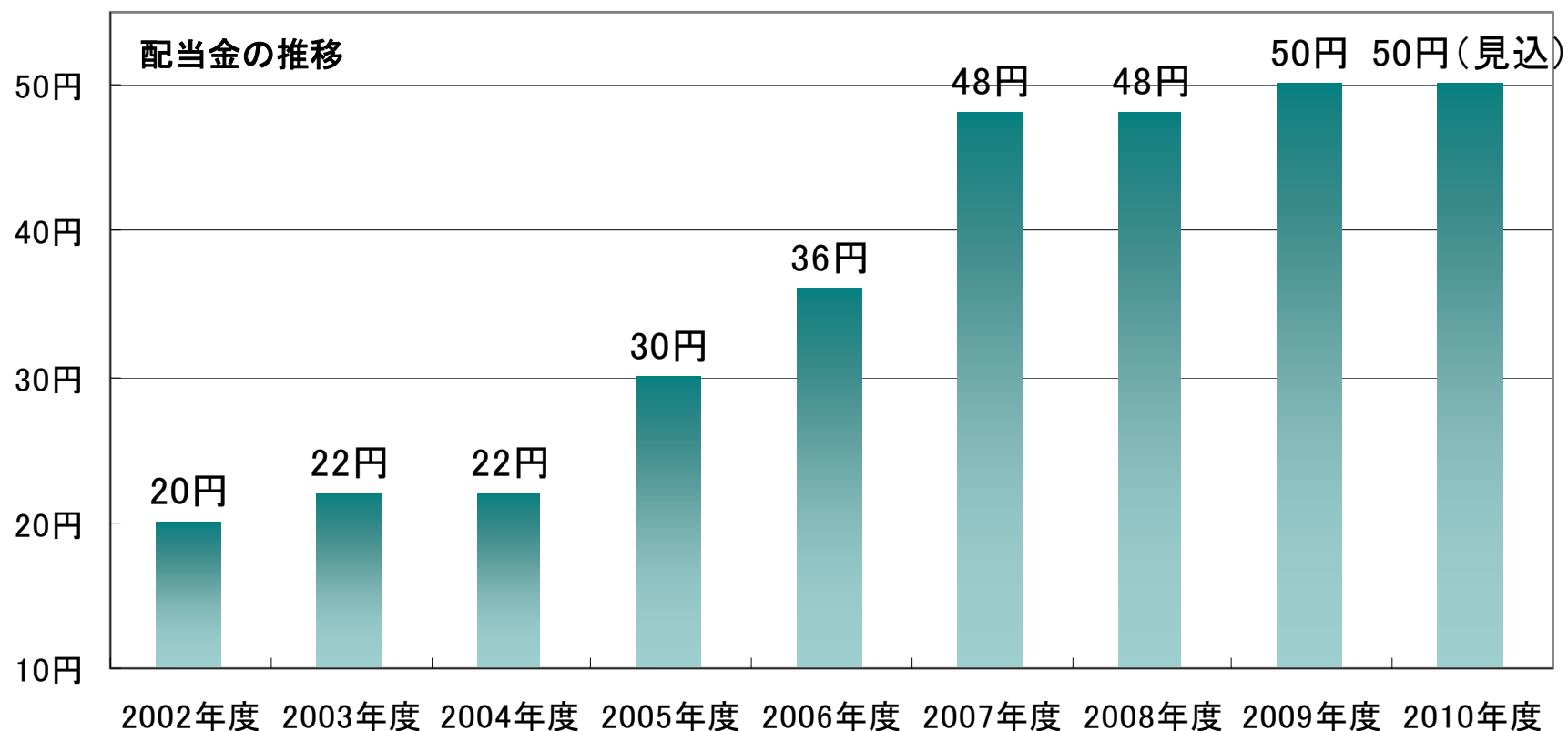
# 5. 株主還元



TOKIO MARINE

## 東京海上グループの株主配当

- 東京海上グループは安定配当を基本方針としています
- 中期計画においては、平均的なコア修正利益に対し、配当性向40%~50%を目途としています



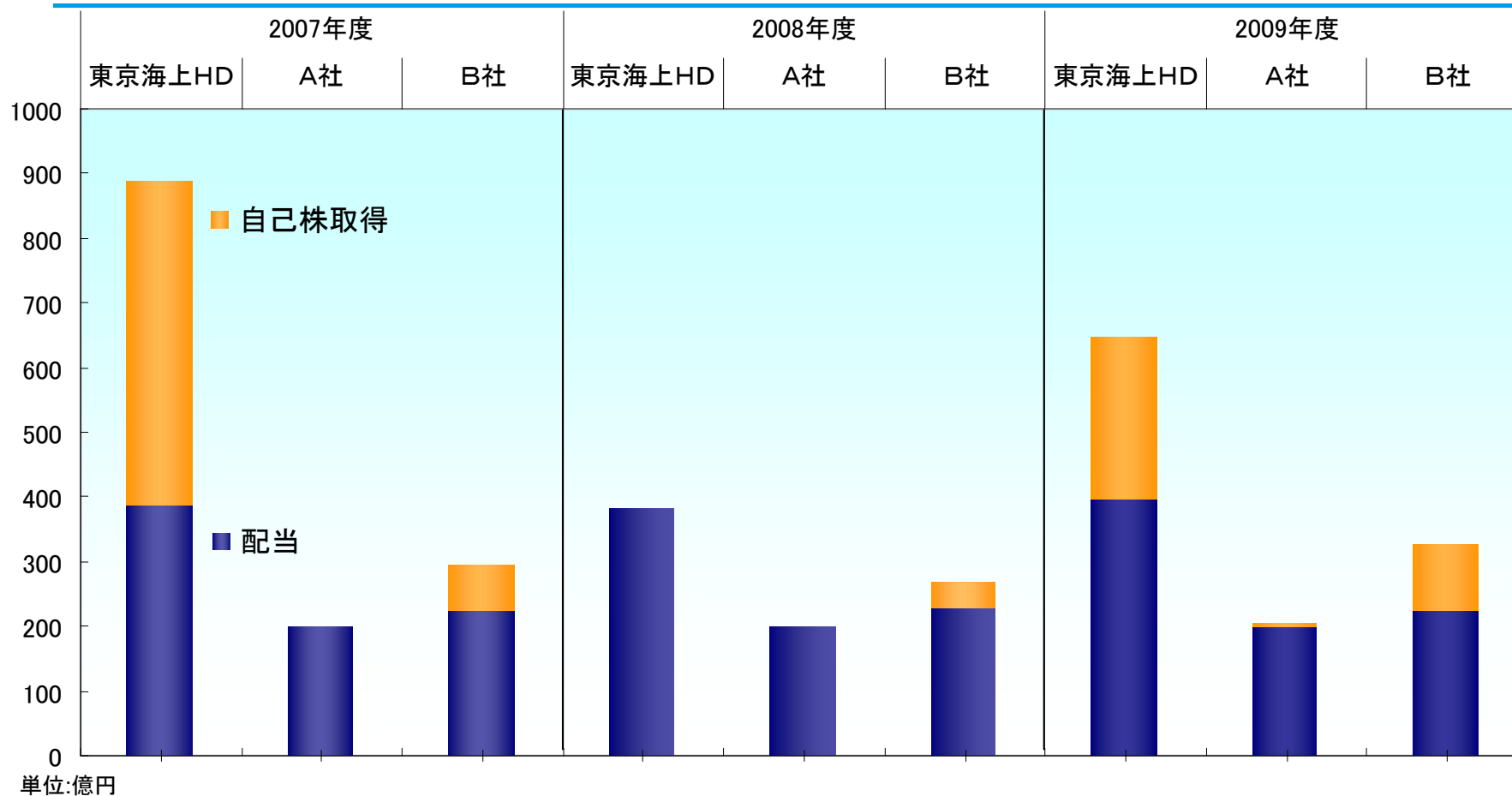
2009年度は期末配当を2円増配し、通期配当は50円となりました



TOKIO MARINE

# 東京海上グループの株主還元

● 当社の株主還元総額は、他社を大きく上回る規模となっています



自己株取得: 当該年度実績に基づき、翌年度に取得した金額

配当: 当該年度の中間配当金と期末配当を合算した金額



TOKIO MARINE



## ご参考資料



# 主要業績一覽

TOKIO MARINE

## 東京海上ホールディングス(連結)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
連結正味収入保険料(百万円)	1,925,081	1,978,664	2,148,683	2,245,135	2,134,243	2,292,911
連結生命保険料(百万円)	431,551	766,813	1,387,912	788,387	746,083	464,799
連結当期純利益(百万円)	67,604	89,960	93,014	108,766	23,141	128,418

## 東京海上日動(単体)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
正味収入保険料(百万円)	1,883,332	1,892,754	1,928,061	1,912,180	1,813,412	1,736,082
(対前期増減率)	-1.1%	0.5%	1.9%	-0.8%	-5.2%	-4.3%
正味損害率	63.4%	60.6%	61.5%	61.6%	67.4%	67.9%
正味事業費率	31.4%	30.2%	30.7%	31.5%	34.6%	34.0%
保険引受利益(百万円)	9,551	34,602	7,971	39,376	73,812	81,792
当期純利益(百万円)	96,857	122,180	96,448	122,992	71,104	94,456
(対前期増減率)	-16.8%	26.1%	-21.1%	27.5%	-42.2%	32.8%

## 修正利益

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
国内損保事業(億円)	184	915	890	994	51	462
国内生保事業(億円)	255	346	482	151	-572	520
海外保険事業(億円)	48	77	286	297	208	765
金融・一般事業(億円)	31	49	38	-10	-211	-94
グループ合計(億円)	518	1,387	1,697	1,432	-525	1,654
修正ROE	1.6%	3.7%	3.8%	3.5%	-1.7%	5.8%

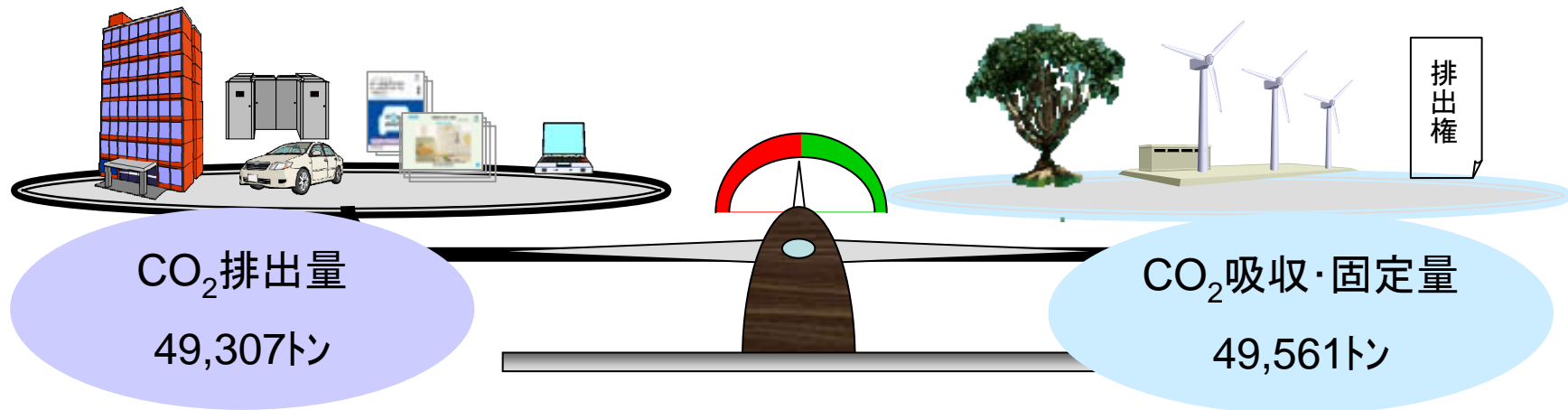


# カーボンニュートラルへの取り組み

## 【カーボンニュートラル】

東京海上日動は、事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取り組みやマングローブ植林活動を通じて、2009年度末時点で国内の事業所全体で「**カーボンニュートラル**」を実現しました

第三者機関より「カーボンニュートラル」の検証を受けた事例は**国内金融機関では初めてです**



「カーボン・ニュートラル」とは、事業活動により生じるCO<sub>2</sub>の排出量に対して、当該企業等の行う植林や自然エネルギーの利用、排出権取得等によるCO<sub>2</sub>の吸収・削減効果の換算量が等しい状態を指します



TOKIO MARINE

# カーボンニュートラルへの取り組み

## 【マングローブ植林活動】

東京海上日動は、1999年からマングローブ植林プロジェクトを開始し、2010年3月末で計7カ国で6,293ヘクタール(東京ドーム約1,345個分)の植林を行いました

マングローブは二酸化炭素を吸収・固定化することで、地球温暖化の防止に役立つとともに、津波等から人々を守る防波堤の役割を果たしています





TOKIO MARINE

## Green Giftプロジェクトのご紹介

東京海上日動では、地球環境保護のため、「ご契約のしおり(約款)」を、「冊子」ではなく「ホームページ」で閲覧いただく「Web約款」をお勧めしています

紙の削減につながるこの活動にご賛同いただき、新規にWeb約款をご選択いただいた場合、弊社より、ご契約1件につき、マングローブ2本の植林に相当する金額を、植林を行うNGO等に寄付させていただき、東南アジア地域の国々等にマングローブを植林していきます





# ご参考：修正利益について

TOKIO MARINE

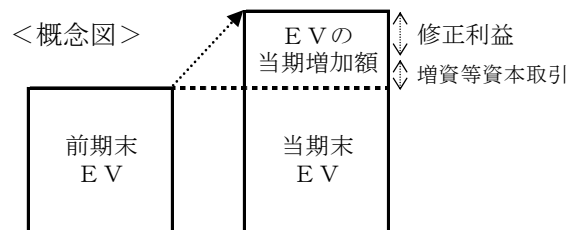
## 各事業の算出式

### (1) 損害保険事業

$$\text{修正利益} = \text{当期純利益} + \text{異常危険準備金等繰入額}^{※2} + \text{価格変動準備金繰入額}^{※2} - \text{ALM債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益}^{※3} - \text{保有株式・不動産等に関する売却損益・評価損} - \text{その他の特殊要素}$$

### (2) 生命保険事業<sup>※4</sup>

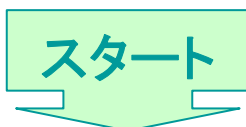
$$\text{修正利益} = \text{EV}^{※5} \text{の当期増加額} - \text{増資等資本取引}$$



- ※1 各調整額は税引き後
- ※2 戻入の場合はマイナス
- ※3 ALM=資産・負債総合管理  
ALMの負債時価変動見合いとして除外
- ※4 グラブル等一部の生保については(3)の基準により算出  
(利益については本社費等を控除)
- ※5 Embedded Value の略  
純資産価値に、保有契約から得られるであろう利益の現在価値を加えた指標

### (3) その他の事業 … 財務会計上の当期純利益

## 算出例：東京海上日動 2009年度実績



東京海上日動の財務会計上の当期純利益	-	異常危険準備金等戻入 (税引後)	+	価格変動準備金繰入 (税引後)	-	ALM債券・金利スワップ取引に関する売却・評価損益 (税引後)	-	保有株式・不動産等に関する売却・評価損益 (税引後)	-	その他特殊要素 (税引後)	=	東京海上日動の修正利益
944億円		168億円		26億円		2億円		248億円		6億円		546億円



TOKIO MARINE

インターネットで最新の情報が確認できます

東京海上HD

検索

http://www.tokiomarinehd.com/

パソコンで **東京海上HD** と検索して下さい。

The screenshot shows the Tokyo Marine Holdings website. At the top, there is a navigation bar with the company name and logo, a search bar, and links for '検索', 'サイトマップ', and 'English'. Below the navigation bar, there are tabs for 'HOME', '株主・投資家情報', 'ニュースリリース', '企業情報', 'CSR', '東京海上グループ', and '採用情報'. The main content area is titled '個人投資家の皆さまへ' (Dear Individual Investors) and features a quote from the Chairman, 'お客様に品質で選ばれ、成長し続ける「グローバル企業グループ」になるために' (Selected for quality by our customers, growing and continuing to become a 'Global Enterprise Group'). A photo of the Chairman, 隅修三 (Kusumi Shuzo), is shown. Below this, there are several promotional tiles: 'わかる! 東京海上グループ' (Understand! Tokyo Marine Group) with 5 points, '業界ポジション' (Industry Position), 'グループの歴史' (Group History) from 1879 to 2010, 'グループの強み' (Group Strength), '最近の業績' (Recent Performance), and '株主還元' (Shareholder Return).



**< ご注意 >**

本資料は、本資料公表日における当社に関する公開情報、及び、当社が本資料公表日において入手している公開情報に基づいて、当社が本資料の作成時点において行った予測等を基に記載されています。これらの記述は将来の業績を保証するものではなく、一定のリスクや不確実性を内包しております。従って、将来の実績が本資料に記載された見通しや予測と大きく異なることになる可能性があることをご承知おきください。



**お問い合わせ先**

**東京海上ホールディングス株式会社**

**経営企画部 広報IRグループ**

**E-mail : [ir@tokiomarinehd.com](mailto:ir@tokiomarinehd.com)**

**Tel : 03-3285-0350**

**ホームページ <http://www.tokiomarinehd.com/>**